

SSKO



おあしす通信

編集 キープハート（おあしすの事業を支える市民の会） 2022年7月号

鮫太郎が
おあしすに
やってきた！



清水建設江東ブルーシヤークスと
おあしすがスクラム！（関連記事は254頁）

社会福祉法人

おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

<http://www.oasisfukushi.or.jp/>

就労継続支援B型事業所

■オアシス・プラス 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811

■コム・オアシス 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

多機能型（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）事業所

■ピアワーク・オアシス 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775

地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助

■ウィル・オアシス 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20 住吉ビル4階 TEL 03-6284-0545

共同生活援助事業（グループホーム）■第2クローバーハウス

おあしす利用者家族の会「杏の会」

社会や地域に貢献できる機会は 障がいの回復やリカヴァリーにつながります ～おあしすの地域貢献活動報告【ブルーシャークス編】～

障がいがあっても、無くても、地域の中でかけがえのない存在として、自己実現を目指せる地域を作っていく。これがおあしす福祉社会が大切にしている理念です。この理念の実現のために、障がいを持つ当法人の利用者が施設内の活動に留まらず、地域の中で活躍し、地域に貢献できる機会を拡充すべく、コロナ禍であっても地域でのつながり作りを続けてきました。今回はそのつながりと活動のご報告を写真をふんだんに使ってご報告いたします。

【きっかけはアートパラ深川でした】

おあしす福祉社会は2020年から「アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」に協力・参加しています。その実行委員の方を通じて、株式会社Quo代表の高瀬拓海さんに出会いました。高瀬さんは「SAMEYA」の屋号でサメバーガーのキッチンカーの営業をされていて、江東区夢の島競技場で開催される、江東区を拠点とするラグビーチーム「清水建設江東ブルーシャークス様（以下「シャークス」）」の試合でキッチンカーの出店を予定されていました。おあしすは利用者が地域で活躍できる機会を探していることをお伝えしたところ、社会問題に造詣の深い高瀬さんから、オアシス・プラスのお弁当とピアワーク・オアシスの缶バッジを「シャークス」にご紹介頂き、試合の招待を通じてのチームとの相互交流のきっかけを創出、さらにはその様子を新聞に取り上げていただくまでご尽力いただきました。

高瀬 拓海さん

3.11の被災地支援をきっかけに気仙沼のサメ漁師の支援の一つとしてキッチンカー「SAMEYA」でサメバーガーを販売されています。

<https://sameyafoodtruck.wixsite.com/-site>



以前千葉県のある障がい者施設に行った時、ご家族が“周りに迷惑をかけるから”と言ってあまり外に出れない人もいることを知った。ぼくはそこをどうにかしたいと思っているんです。それには、福祉施設とは関係ない“一般の人”で障がい者に対してサポートしたい、理解したいという思いを持った人たちの見方を家族や当事者に伝えていく。そうすることでいつか“周りに迷惑をかけるから”



というのは自分の思い込みに過ぎないかもしれない・・・と気づいてくれる日が来るような気がしています。今回はスポーツの地域貢献の在り方のひとつとして、障がいのある人たちが携わった商品を使うという形で、チームの社会的な意義の向上にもつながると思ったし、なにより障がいがあっても自分が働いた成果をリアルに感じられる機会にすることで“社会にとって必要とされている存在だ”と実感してもらえると、思ったんです。あんなに丁寧に素晴らしい仕事をしている利用者の皆さんだからこそ、自分たちの仕事によって社会活動が成り立っている・貢献できているというのを目に見える形で実感してほしいと思って、今回協力させていただきました。

【江東ブルーシャークスがおあしすにご発注！！】

高瀬さんが熱くチームにプレゼンテーションしてくださった結果、正式に「シャークス」から缶バッジとお弁当のご発注が決定。缶バッジは4月9日の江東区夢の島競技場で開催される試合会場でチームの公式グッズの一つとして販売、お弁当は試合当日のスタッフ用というお話でした。ピアワークでは缶バッジの製造・販売を開始してから1年ほど経ちますが、これまでご注文頂ける機会がほとんど無かった中、初めての大量注文！！利用者職員一同、嬉しい悲鳴をあげました。4月9日の試合までに2,000個の缶バッジを納品することになったピアワークでは、急ピッチでその製造に取りかかりました。それまで製造機は1台だけだったのですが、「1台じゃ納期に間に合わない！」ということで、もう1台増設。作り始めたものの、中に汚れが混入して大量の不良品が発生。利用者職員一丸となって不良品発生の原因を突き止めて、改善策を見い出したり、作業効率を上げるために、工程を分けて役割分担を決めたり、まるでテレビドラマの「下町ロケット」さながらの製造活動が展開されました。



【鯨太朗がおあしすに来てくれた！】

「シャークス」は今年新しく始まった「ジャパンラグビーリーグワン」の方針の一つである「チームが地域に貢献する」取り組みの一つとして、当法人への発注を決めてくださったそうです。その取り組みをチームのファンの方にも見て頂くために、缶バッジを製造している様子をチームのマスコットキャラクターの「鯨太朗」がピアワーク・オアシスに取材に来てくれて、その様子はチームのSNSで配信されました。



チームのTwitterでも缶バッジと取材風景が紹介されました。
 鯨太朗缶バッジはチームのオンラインショップからも購入できます。
<https://www.rugbygoods.com/SHOP/892830/1147144/list.html>

【読売新聞に掲載されました】

今回の「シャークス」とおあしすの協業が2022年5月4日の読売新聞（江東区版）に掲載されました。取材の中で「実際に食べた選手・スタッフからも好評で、シャークスとしてもこのような地域貢献を継続していきたい」という言葉もチームから頂きました。おかげさまで、この「記事を見た」という方から新規のご注文を頂いたり、おあしすとチームの取り組みが多くの人に知って頂く機会となりました。

※新聞記事の内容は付録をご覧ください

（オンライン版 <https://www.yomiuri.co.jp/local/tokyo23/news/20220503-OYTNT50137/>にも掲載されました）

弁当で地域とスクラム



【初めて見るラグビーは迫力満点だった！】

ピアワークは納期までにきちんと缶バッジを納品でき、4月9日の試合当日にはグッズ販売ブースにちゃんと置かれていました。それを見た利用者の方は「自分が作った商品がたくさんの方の手にとってくれるかと思うと、頑張った甲斐があったと嬉しく思う」と言っていました。

一方オアシス・プラスは試合当日の朝7時から弁当作りに奮闘し、125個のお弁当を無事納品できました。

今回のお弁当には「ブルーシャークスのお弁当なのだからサメを献立に入れよう！」ということで、高瀬さんからサメのお肉を提供いただき、副菜にサメの唐揚げも入れました。納品後は利用者・職員併せて約20人で試合を観戦しました。当日は江東区民無料の芝生席が開放されていたこともあり、2,300人以上の観客で賑わい、迫力満点の熱いコンタクトを間近で見ることができて、これまでに経験したことのない機会となりました。



【5月の入替え戦にもお弁当を納品】

4月の試合の後、リーグ最終戦かつ、チームが3部から2部への昇格がかかった大切な試合の5月28日にもオアシス・プラスにお弁当の注文を頂きました。私たちにとって大切なお客様の大切な試合ということで、おあしす全体でチームを応援しよう！！とポスターやチラシを掲示したり微力ながら広報の協力もさせて頂きました。

【持続可能な協力関係をめざして】

5月28日の入替え戦は、「シャークス」の応援団を通じて、指定席に13名招待して頂きました。芝生席とはまた違った景色から見る試合に、利用者職員一同、大興奮でした。コロナ禍でほとんどの行事がなくなってしまい約3年。利用者からは「久しぶりに“楽しくて疲れた”という経験ができた」という声も聞かれました。この日の試合では「シャークス」は快勝し、来季の2部昇格も決定しました。チームの活躍にわたしたちも関わることができたという経験は、これからの活動の大きな励みになりました。

今回はこれまでのつながりがご縁を呼んで、数年前には信じられないような機会に恵まれました。障がいのある人が地域で安心して自分らしく暮らして行くには「孤立」を防いで「つながりを持つ」ことが不可欠です。よって今回のつながりがこれでおしまいということではなく、双方にとって意義のある形で持続可能な関係を続けていけるよう、法人をあげて取り組んでいきたいと思えます。もし叶うならば、缶バッジを始めチームのグッズを協働製作したり、チームと一緒に何か地域内でのイベントを企画したりできたら素敵だなと思っております。

この度ご縁を運んでくれた「アートパラ深川」の皆様、つないでくださった高瀬拓海様、そして清水建設江東ブルーシャークスの皆様に心から御礼申し上げます。
(友田 奈津美)



7月16日(土)に豊洲でファン感謝祭があるそうです。
みんなで行こう！

社会や地域に貢献できる機会は 障がいの回復やリカヴァリーにつながります ～おあしすの地域貢献活動報告【深川資料館通り商店街編】～

オアシス・プラスから徒歩5分の所に「深川資料館通り商店街」があります。オアシス・プラスもこの商店街組合に登録し、2021年1月から週に1回金曜日に、商店街組合事務所の一角をお借りして、お昼のお弁当を販売させて頂いています。週に1回ですが1年以上経過し、常連のお客様もできてきて、開店前からお待ち頂くお客様もいるほどです。週に1回、私たちのお弁当を待っていてくれる人がいる！というのは、当事業所で働く利用者にとってとても励みになることですし、やりがいにつながっています。今回は私たちが毎週お世話になっている商店街が企画するイベント2つに出店させて頂きましたので、その様子をご紹介します。

【深川美楽市】

4月24日に開催された深川美楽市。昨年11月にも開催されましたが、その前は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止が続いていました。商店街の一部を歩行者天国にして、大道芸や近隣の様々なお店がブース出店するこのお祭りは、長く地域から愛されているイベントです。

プラスでは豚汁とお惣菜で出店。14:00頃から雨が降り出してしまい、悔やまれながらの途中撤収となってしまいましたが、それまでの間はたくさんの方が久しぶりのイベントを楽しみに来ていて、わたしたちも常連のお客様とも挨拶を交わしたり等、街を構成する一部でいられているなあと感じられる機会となりました。



【深川お化け縁日2022春の陣】

5月3日には日本全国からお化け好きのアーティスト約30組が集結する「深川お化け縁日」が3年ぶりに開催されました。このイベントは日本の妖怪、伝承などをモチーフにしたオリジナルグッズを販売するフリーマーケットをメインに、大道芸やパフォーマンスも展開します。とても人気と歴史があり、プラスは白河にできてから15年ほど経ちますが、近くにいるのに全く知らなかったことを恥ずかしく感じるほどのイベントだとか。「お化け」に関するイベントということで、販売員もお化けの格好をしよう！！ということで、事前に商店街の呉服店「田巻屋」様にお化けのお面を買いに行くなど、お惣菜以外の準備にも力が入ったの出店でした。

イベントは当然ですが、お化けや妖怪に関するものを求めた方々が集まるので、お惣菜はあまり売れませんでした。お化けの仮装をして、様々なお化けグッズを見ながらの販売はまるで学園祭のようで、利用者・職員も学生時代に帰った感覚で、非日常の楽しい時間を過ごせました。

このような普段の施設内とは違う機会や、人々と触れあえる機会は利用者のモチベーションの向上や自信の回復にとっても有効です。今後もこのような機会には積極的に参加していきたいと思います。（友田奈津美）



お店に木のおもちゃのぬくもりを 「木のおもちゃのお店 おあしす」 ～ポップアップストアの開催とカフェでの展示販売～

木のおもちゃ、コロナ禍でピンチに

ピアワーク・オアシスでは利用者の仕事として木のおもちゃの製造と販売をおこなってきました。しかし、2年以上にわたるコロナ禍で多くのイベント販売が中止となり利用者の収入となる売上が激減してしまい、私たちは何とかして販売の機会を作らなければなりません。そこで出店可能なイベントを探しまわり、なんとか売上を確保するという日々が続きました。

ポップアップストア開催へ

遠くまで足を延ばし販売機会を増やしたことで売上は増えましたが、コロナ禍を経験した私たちは従来のイベント販売に頼り過ぎた販売方法に危機感を抱いていました。

そんな中、「木のおもちゃのお店 おあしす」のツイッターを見てくれた清澄白河の『ブックカフェ ドレッドノート』オーナーの鈴木さんから「ポップアップストアを出してみませんか？」というご提案をいただきました。

ポップアップストアとは数日から数週間程度の期間限定で開設する販売店舗です。清澄白河という都内で最も注目されている場所にあり、こだわりの書籍と美味しい食事が楽しめる評判のショップの店先をお借りできることは私たちにとって願ってもない話でした。

残念ながらまん延防止措置が発出された中での開催となってしまいましたが、10日間にわたる出店では多くのご家族連れのお客様が私たちの木のおもちゃを手にとってくださったとのことでした。

さらにこの出店をきっかけに文京区の『はりま坂薬局』でも16日間のポップアップストアを開催することができました。

はりま坂薬局はきれいな桜並木で有名な播磨坂の途中にあり、漢方相談やリフレクソロジー施術も受けられる薬局です。ドレッドノートでのポップアップストアの評判を聞き、声をかけてくださったそうです。

このたび「おあしすの木のおもちゃ」のポップアップストアを開催させていただいたお店

Books&Cafe ドレッドノート

東京都江東区平野2-3-21
03-5809-9008



はりま坂薬局

東京都文京区小石川5-40-16
03-3830-0393



「木のおもちゃのお店 おあしす」では展示販売をさせていただけるお店、
東京・江東区近辺でポップアップストアを開催させていただけるお店を探しています。

お問い合わせ先：info@oasisfukushi.or.jp

もしくは ピアワーク・オアシス（03-5638-1775）まで

fukadaso cafeでの展示販売

清澄白河にあるfukadaso cafe（フカダソウカフェ）は築50年のアパート兼倉庫を改装したお店です。レトロな雰囲気と居心地の良い店内はドラマの撮影にも多く使われ、多くのお客様が訪れる人気店です。

おあしすの木のおもちゃは2021年10月に開催された障がい者のアートを街中に飾るイベント「アートパラ深川」で店内に置かせて頂きました。その際、お店の皆さんがおあしす福祉会の活動について熱心に聞いてくださり、イベント終了後も常設で木のおもちゃの展示販売をさせていただけることとなりました。

利用者と一緒に木のおもちゃの納品をおこなった際にはオーナーの佐藤さんからお子さんが木のおもちゃを手放さなかった話など、お客様の様子も教えていただいています。

私たちにとって自分たちの作った木のおもちゃを多くのお客様が目にするお店に置いていただけることは販売の機会をいただけるということだけでなく、私たちの活動を知っていただけるという点でも大きな喜びです。そしてそれは利用者たちにとって大変な励みになります。

心をこめて作った木のおもちゃのぬくもりがお店の新たな魅力のひとつとしてお客様が足を運ぶきっかけになれば幸いです。

（田坂瑠璃/武藤康司）



「木のおもちゃのお店 おあしす」 オンライン販売 始めました



「木のおもちゃのお店 おあしす」ではこの度通販ショッピングアプリ「BASE」でのネットショップ販売を開始しました。コロナ禍で未だに東京での販売活動が制限される中、長年にわたり利用者の工賃収入となってきた木のおもちゃの売上は厳しい状況が続いています。数十年にわたり工夫と努力を重ね、被災地支援活動において子ども達とご家族の希望となったおあしすの質の高い木のおもちゃは私たち利用者と職員にとって誇りでもあり、何としても継続したい事業です。この機会にぜひご購入をお願いいたします。



①椅子付ロボット
素材：ヒノキ
3000円



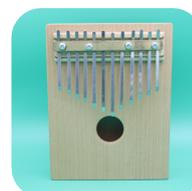
②カスタネット
素材：ナラ
3200円



③リス
素材：ケヤキ
3500円



④トラック
素材：ヒノキ
3500円



⑤ハンドオルゴール
素材：タモ
5000円

* 上記以外の商品もBASEでご購入いただけます。

* 直接のご購入や商品についてのお問い合わせはピアワーク・オアシス
（TEL：03-5638-1775 平日10時～17時）まで。

* もしくは <https://oasistoy.base.shop/> 「木のおもちゃのお店 おあしす」で
検索してください。



広げたいフードドライブの輪 ～みんなに優しい北砂地域を目指して～

おあしす福祉会は障がいの有無にかかわらず誰もが参画できる地域を目指し、持続可能な社会貢献活動としてフードドライブに挑戦しています。この活動を通し、おあしすに通う利用者にとっても社会で活躍できる場所となるように、人と人とのつながりを大切にしながら取り組んでいます。しかし、まだまだ課題が多い状況です。

フードドライブの活動を始めて1年

障害のある利用者とともに2021年5月から始めたフードドライブでは、主にリサイクルショップ・オアシスを回収拠点とし食品を集めてきました。はじめは回収期間を毎月10日から20日までとしていましたが、期間外でも食品をお持ちくださる方が多かったため、現在では常時回収ボックスを設置しています。また、前号のおあしす通信にこの活動について掲載して以来、地方の方や企業様から郵送で食品を送っていただくようになりました。少しずつではありますが、毎月途切れずに食品を集めることができおり、皆さんの支援を心強く感じています。

月に1回開催のフードパントリーに参加して

コム・オアシスで集めた食品は、法人内で必要としている方にお渡しするほか、主にフードバンク江東さんにお預けしています。フードバンク江東さんは、月1回フードパントリー（配布会）を開催し、食品を必要としている方にお届けするために福祉団体等に配布しています。そのパントリーでは、たくさんの食品が机に並べられ、15分ほどであっという間になくなります。その様子から、食品を必要としている方の存在を実感することができ、私たちにとって身近な北砂地域でも食品を求めている人は必ずいると思うようになりました。そして配布会をするにはさらに量が必要だと痛感し、どうしたら回収量を増やせるのかと頭を悩ませるようになりました。

フードドライブの輪を広げていきたい！

今後は、リサイクルショップがある北砂地域で、食品を必要としている方に向けたパントリー（配布会）を開催したいと考えています。そのためには、食品の回収量を増やす必要があります。回収ボックスの設置や、食品の寄付など一緒に活動して下さる団体・企業様がいましたら、コム・オアシスまでご連絡ください。食品を大事に活用して下さる方に届けることでもったいない食品を減らせるこの活動を、地域の方々と共に持続可能なものにしていけるよう取り組んでいきたいと思えます。

（山岡 望）



フードドライブへの寄付&リサイクル品募集中！

おあしすのフードドライブは、幅広くもったいない食品を減らせるように、冷凍食品や生野菜等も受け付けることにいたしました。回収や保存場所を考慮する必要がありますが、寄付をいただける場合はぜひ一度お電話にてご相談ください。また、リサイクルショップオアシスでは提供品を募集しています。詳細は同封のチラシをご覧ください。

発行人：障害者団体定期刊行物協会 世田谷区祖師谷3--17-102

編集人：キープハート／おあしすの事業を支える市民の会 定価100円